

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100770		
法人名	株式会社 夢・未来		
事業所名	グループホーム方木田		
所在地	福島市方木田字水戸内8-15		
自己評価作成日	令和4年5月31日	評価結果市町村受理日	令和4年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気になるよう心掛け、利用者様が自分らしく、やりたいことが叶うよう可能な限りサポートしております。入所の際は、自宅で使用していた馴染みのあるものなどを持ってきていただいております。午前中は体操、午後はレクリエーション、ドライブに散歩など利用者様が日々を笑顔で過ごして頂けるよう支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. コロナ禍の中、利用者が身体を動かす機会が多くなるよう計画的に午前中は体操や清掃作業、午後はレクリエーションやドライブ、散歩に出かけている。ドライブは、少人数で日替わりで花見や紅葉狩り、自宅や事業所周辺に出かけ、気分転換が図れるよう取り組んでいる。利用者の健康維持と良好な睡眠につながり、利用者と家族が安心した生活が送れるよう支援している。  
2. 職員を外部研修に積極的に派遣しており、研修結果を報告書にまとめ今後の目標も考えさせるなど、職員育成に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に施設内の目の届く所に掲示しており、申し送り時に確認し、理念にそったケアが提供出来るよう心がけております。	事業所の「経営理念」には、「地域・社会資源との連携を図り、開かれた施設を目指す」と、地域密着型事業所の趣旨が明記されている。理念は常に目の届くところに掲示し、申し送り時に確認することで毎日のサービスに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため交流は難しい状況ではありますが、天気の良い日は施設周辺の散歩にて地域との交流を図るよう心がけております。	町内会に加入しており、コロナ禍のため現在は控えているが地域のお祭りなどの行事へ参加し交流していた。好天時には近隣の散歩に出かけ、地域の方たちと挨拶を交わすなど顔なじみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺散歩時の付き添いや声掛けの支援の中で、地域の方々が関わりやすくなるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	偶数月に開催し、施設での取り組みや、運営状況を発信できるよう、民生委員、地域包括等にお届けしております。	運営推進会議は年間を通して定期的に開催し、現在はコロナ禍により事業所内での行事や事故等の報告書を送付している。	コロナ禍で書面のみとなっているが、アンケート用紙を入れるなど委員から意見やアドバイスを受ける工夫が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護を受けている利用者様がいるため毎月担当者と情報の共有をし、地域包括からの相談にも協力体制が構築できるよう努めております。	市高齢福祉課とは事業所開設時から事業所運営等について連携を図りながら対応している。生活保護利用者についても、生活福祉課との協議や連携により対応している。また、地域包括支援センターが近隣にあり協力関係を維持している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて外部研修に参加し、情報共有できるよう内部研修を実施しております。また研修の資料を回覧し身体拘束をしない介護に努めております。	事業所では年間を通して定期的に「身体拘束検討委員会」を開き、職員の内部及び外部研修等を活用し、全職員が意識を共有して身体拘束をしないサービスに徹している。建物の1階が玄関、2階がグループホームとなっているので、人の出入りには気を配っており、安全面から施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修に参加し、情報共有できるように内部研修を実施しております。虐待が発生しないよう防止に努めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての冊子を作り、職員同士で理解できるようミーティング時などを利用し情報共有しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にご家族の要望や不安などをお聞きし、文書にて説明しながらご納得、ご理解をして頂いた上で契約が出来るよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際やお電話にて利用者様の状況をご家族へ報告し、家族が意見等を伝えやすい雰囲気を中心掛けております。	家族の意向や要望等は面会時や電話連絡時を利用し、利用者の状況報告や健康状態等を伝え意見や要望を聞き取っている。意見等は、事業所の月例ミーティング等で検討し全職員が情報の共有をして日常のサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング開催時に職員の提案や意見を発信できる場を設けるとともに、管理者が職員の意見を聞き取り出来るよう心掛けております。	月例のミーティング時には職員より意見や要望等を発言してもらい、職員全員で検討している。また、事案によって随時話し合いを行い、管理者と職員は常に情報を共有している。課題によっては法人に報告し対応する体制となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを実施しており、働きやすい環境を作るように職員の意見をくみ取っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を積極的に行うとともに、職員がスキルアップが出来る体制づくりに努めております。また職員間での技術指導も行ってまいります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設同士の話し合いの場を設け、意見交換をしております。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人より語られる情報に耳を傾け、対応や声掛けに配慮し信頼関係を構築出来るよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを契約時にしっかりと聞くとともに、入所後も面会時等にてコミュニケーションを図り信頼関係を構築出来るよう努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様とご家族それぞれの意見や希望をお聞きし、納得して生活できるよう様々な提案を提示し、支援しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体調や状況をみながら、利用者様の残存機能を生かせる場の提供をし、利用者様と職員が支えあえる関係性になるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やお電話にて利用者様の意向をお伝えしたり、ご家族の意見も伺いながら、職員が本人とご家族の橋渡しとなり本人を支えていく関係を築いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを通じて自宅周辺の様子を伺ったり、面会時に近所の写真をご家族に撮影して頂いたりしております。	日々感染防止に努めながら、窓越し面会を行い馴染みの関係の継続に努めている。また、少人数で自宅近くや事業所周辺のドライブを行い、公園で休憩するなどの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	達成感を味わえるようなレクリエーションの中で、 利用者様同士で応援しあえるような環境を作り、 1人で難しい利用者様には職員が付き添い、交 流の時間の過ごし方を工夫しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ行かれた利用者様へのご家族へ 連絡をし、これまでの関係性が途切れない 様に努めております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	職員との交流の中で、ご本人の得意なこと 好きな事をくみ取りながら、利用者様のやり たいことを行えるよう努めております。	日常のかかわりの中で利用者の要望を汲み 取り、支援している。困難な場合は、表情や 仕草、日常の習慣、家族の情報などから把 握し、職員間で話し合い、利用者本位の支援 に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所前に利用者様の生活歴や生活環境の 把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	朝、ター日二回のバイタル測定をし、体調 の変化に努めております。現状の状況や 日々の変化も職員間で共有出来るよう努め ております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	利用者様とご家族などのご意見や状況に基づき 職員間で話し合いをし介護計画に反映しており ます。また、利用者様の状態変化があった場合は 都度見直しを行っております。	利用者の入居以前の経歴や生活状況等を把握 し、事業所での生活に対する希望や要望等を本 人と家族から聞き取り、職員及び家族の理解の もと介護計画を作成している。急変時には担当医師 の意向も組み入れ状況に応じ随時見直しを行って いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違う様子や行動など記録を見た だけで1日の様子を把握出来るような記録に なるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の要望や思いを傾聴できる環境作りに努め、柔軟な対応が出来るよう心掛けております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺の散歩にて地域の把握と、本人が安全で生き生きと生活できるよう支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度の往診を受けており、必要があればすぐに対応して頂いております。緊急時にはご家族同意のもと、適切な医療が受けられるよう努めております。通院が必要な場合は付き添い、送迎も対応しています。	利用開始までに本人・家族と話し合い、かかりつけ医か協力医療機関を選んでもらっている。かかりつけ医への受診は家族付き添いを原則としているが、職員が同行することもある。医師には、事前に利用者の体調等をFAXで連絡し、受診結果は家族へ電話報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護を受けており健康管理、電話での相談も対応して頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は往診医からの情報提供がなされている。また相談員との情報共有を密に行い早期退院が出来るよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族やご本人に重度化の指針について説明をし、終末期事前確認書でご意向を伺っております。往診医や訪問看護と連携しご家族の意向に寄り添った看取りを行っております。	事業所では、入居時に「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を利用者と家族に説明し、同意を得ている。看取り時は、家族の意向に沿いながら医師や看護師等と連携して対応している。また、終末期についての職員研修も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング開催時に急変時のシミュレーションを行う他、ご家族様の連絡先の整備を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いのもと避難、通報の訓練を定期的に行い、マニュアルを作成しております。火災の際は近隣の方にも自動で連絡が入るようになっており、協力体制もできております。	消防署立会いの総合訓練を年1回実施し、毎月火災及び水害時避難訓練を行っている。事業所が2階のため、火災時の避難用テラスを整備している。水害時の垂直避難や緊急時の通報など地域の協力体制が構築されている。食料等も備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のケアをする際は必ず居室など扉が閉まるスペースで行っております。自立の方への声掛けにも配慮し、プライバシーを損ねないように注意しております。	全職員は利用者との日常のかかわりの中で、利用者の尊厳と思いやりの心をもって接し、プライバシーを確保するよう努めている。また、利用者個人のファイルは施錠できるキャビネット等で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の味付けやおやつ選び、入浴の際の衣類選びなど小さなことから利用者様に選んで頂けるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様おひとりおひとりの生活ペースを守り、その日の状態に合わせて支援出来るよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗面所での整容や入浴時の衣類を選んで頂くなど支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	下膳やテーブル拭きなど状態に合わせて出来る事をお手伝いいたしております。行事ではおやつにデコレーションをしたり、配食のメニューをお楽しみメニューにしたりしております。	食材宅配会社が策定した献立をもとに食材を納入している。行事食やおやつの時などに少し手を加え利用者の好みを反映させるなど行っている。体調の変化により”刻み食”や”おかゆ”の対応もできている。利用者はできる範囲で食事の準備や片付けに職員と共に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の水分量、食事の摂取量を記録し把握しております。利用者様に合わせ食事の形態を変え、食べやすい状態での提供をしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が必ず付き添いをし、歯科医のアドバイスに沿った口腔ケアを実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様それぞれの排泄パターンを理解し、定期的な声掛けや誘導をし、仕草や表情を観察するよう心掛けております。	トイレでの自然排泄を目標に、一人一人の排泄パターンを把握し、経過時間や利用者の仕草等からやさしく声を掛け誘導している。また、便秘対策として水分の補給や乳酸飲料なども取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録表をつけ、おひとりおひとりの状態を把握するよう努めております。適度な運動と食事、水分摂取に努め、往診医に相談しながら状態に応じた処方もして頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが利用者様の体調や希望に合わせて柔軟に対応しております。季節によってゆず湯やバラ風呂など入浴を楽しめる工夫もしております。	入浴は利用者の体調や希望により入浴に誘導している。入浴を嫌がる利用者には時間や話題、担当者を変えながら誘導している。入浴出来ない利用者には足湯・シャワー浴や清拭等で支援している。季節のしょうぶ湯・ゆず湯や入浴剤などを利用し楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望される利用者様はお昼寝をして頂いたり必要に応じて支援しております。また使用していた寝具をお持ち頂いたり安眠に繋がるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬情は分かりやすいよう整理し常に確認できるようにしております。薬のセット及び服薬時は2人でチェックを行い誤薬防止に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳みやモップ掛けの家事や体操、レクリエーションへの参加など、利用者様がそれぞれ役割を持ったり気分転換が図れるよう支援しております。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブへ出かけたり、施設周辺の散歩へ出かけるなどしております。	コロナ禍により今までと同じ対応は困難ながらも好天時には感染対策に留意しながら少人数で事業所近くの散歩や自宅周辺までのドライブに出かけている。また、屋外でプランターによる花の栽培等を行うことで外気浴ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を使用し、ご本人が好むものを購入出来るよう可能な限り行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からのお電話や親せきからのお電話の取次ぎなどの支援をしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて施設内の装飾を変え、季節感を味わえるよう工夫しております。温度調整は気温に応じて職員が調整し、居心地の良い空間作りに努めております。	好天時にはテラスで外気浴を楽しんでいる。リビングの温度・湿度・換気は職員が適切に管理し、利用者の作品等を掲示するなど、利用者が落ち着いて過ごせるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子の配置を調整したり、テーブルを利用し自由に過ごして頂ける工夫をしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご自宅から布団や家具等、馴染みの物を持ち込まれたり、本人と家族の希望にそった支援を心掛けております。	居室は、換気扇・エアコンで温度湿度管理をしている。利用者は、使い慣れた家具や写真、衣装ケース、布団などを持ち込み自分らしい居室になっている。看取り期には家族の希望に応じて家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	何の場所かを理解して頂けるよう張り紙をしたり、配置を変えて混乱することの無いよう工夫しております。		